

# 東播センター合唱団機関誌

第53号 2012年4月29日

発行 東播センター合唱団 機関誌部  
http://homepage3.nifty.com/oskyiuenk/



## 花見に行ったよ

4月8日、14人で藤ノ木公園へ花見に行ってきました。絶好の花見日和で、集合場所のかしま神社駐車場の桜は四分咲きでした。

そこから3台の車に分乗して40分間かかり、姫路と加西のさかいあたりにある藤ノ木公園へ。

桜の木はあまりなかったのですが、りっぱなバーベキュー場があり、そこで野菜を刻んだり、サラダを作ったりして、西本団長の到着を待ちました。11時半頃から野菜を焼き始め、12時すぎに西本さんも交えて乾杯、たくさんの野菜や肉、魚をいただき、ビールやワインで気持ちよく酔いながら、楽しく過ごしました。しめには岸本さんの入れてくれたコーヒーをよばれ、切川さんのさし入れの、イースターのゆで卵をいただき満腹です。少し歩いて場所をかえて、歌をうたって過ごしました。

緑に囲まれて、ゆっくりと日光浴を楽しみました。毎年の花見ですが、年々人が増えていくのが嬉しいです。

花見に行けなかった人も、是非来年は参加してください。

花見というより、お互いの鼻見のようでしたが、親睦も深まり良かったと思います。

(坂田リポート)

春陽を受けて乾杯 友のほほ

## シリーズ「私の思い出の曲」

### 第1回「琵琶湖就航の歌」

坂田月代

私が20歳代の頃のことです。

恋愛中の彼と結婚を巡って、彼の両親の反対があり、一人で琵琶湖方面へ旅に出ました。そこから、「琵琶湖就航の歌」の二番の歌詩を電報しました。

松は緑に砂白き  
雄松が里のおとめ子は  
赤い椿の森かげに  
はかない恋に泣くとかや

それを見た彼は私が琵琶湖で身を投げたのではないかと心配して、思わず新聞を見たと言っていました。私の後を追って琵琶湖へ行ったのですが、会えずに帰ってきました。

今となってはなつかしい思い出であり、忘れられない一曲となりました。歌うたびにその事を思い出し、甘ずっぱい思いがこみ上げてきます。

(次回は稲垣みどりさんにバトンを渡します)

変集降記  
久しぶりに原稿をいただき、ホームページに載せることができました。執筆者を探すことも必要だと感じます。執筆者といえば、ご意見番にはこのところTさんがいろいろな思いを載せてくれていきます。ありがたいことです。